



西部教育局からのお役立ち情報

今月のトピック紹介版

1月号



次年度の学校経営について考える「学校教育目標の具体化」

新年を迎え、次年度の学校経営構想の検討が進められていることと思います。学力向上、生徒指導、特別支援教育と学校の課題が多様化する中、組織力を高める学校マネジメントはますます重要になっています。本号では、学校の組織づくりを芯の通った組織に高めるための第一歩として、「学校教育目標の具体化」について考えています。より良い教育を目指し、組織的に取り組む学校づくりの参考にしていただければと思います。

算数の学習で説明する力を伸ばす「単元到達度評価問題を例に」

小学校単元到達度評価問題10月、11月を終えて、どの学年にも共通する課題として挙げられるのが「説明」です。今回は、子供たちが説明する際、どのような要素が必要か、単元到達度評価問題を通して4つの要素（例）を紹介しています。小・中学校における算数・数学の日々の授業づくりにお役立てください。

特別支援教育ほっと通信

特別支援学級の教育課程については、特に必要がある場合、特別な教育課程を編成することができます（学校教育法施行規則第百三十八条）。今回は、その手順と知的特別支援学校の各教科について紹介しています。今後の教育課程の見直しや次年度の編成にお役立てください。

次年度の学校経営について考える「学校教育目標の具体化」

学力向上の実現や生徒指導上の課題克服のために、まずは、全職員で一丸となって教育活動を展開する体制づくりが必要です。本号では、学校教育目標の具体化を図り、課題解決に取り組む学校づくりについて紹介しています。次年度の学校経営方針策定やマネジメントサイクルの編成にお役立てください。

【学校運営について次のような課題が見られませんか？】

- ・学校運営方針について、全職員の共通理解が不十分。このため、個々の目標設定も曖昧。
- ・学校評価が学校改善のために有効に機能しておらず、学校が目標達成型の組織になり得ていない。
- ・学校教育目標に対する検証がうまくいっていない。
- ・全職員に達成感や充足感を得られにくい状況がある。具体的な目標や取組の設定が必要ではないか？
- ・学校関係者評価委員から、学校評価の項目が抽象的で、評価が難しいとの意見があった。

学校教育目標や経営方針は、より具体的に。また、教育目標達成に向けた取組は、**評価可能**で具体的なものになっているか確認しましょう！【目標・取組の具体化、数値化】

「重点目標」「達成指標」、具体的な「取組内容」を、年度始めに設定し、**学期毎に振り返りながら、学校教育の質の向上を図ります。**

例)

【重点目標】

あいさつができる子供の育成

【達成指標】

年度末保護者評価の肯定的な回答90%以上

【取組内容（重点取組＋取組指標）】

- 毎朝2人以上の教員が、校門であいさつ運動を行う。
- 毎週金曜日の全学級の帰りの会であいさつができた子供をほめる。

- 重点目標(焦点化)は、学校の喫緊の課題に対応させます。
- 取組指標は、「誰が」「何を」「どのくらいの頻度で」行うか、可能な限り明確にします。



例)

【重点目標】

確かな学力の育成

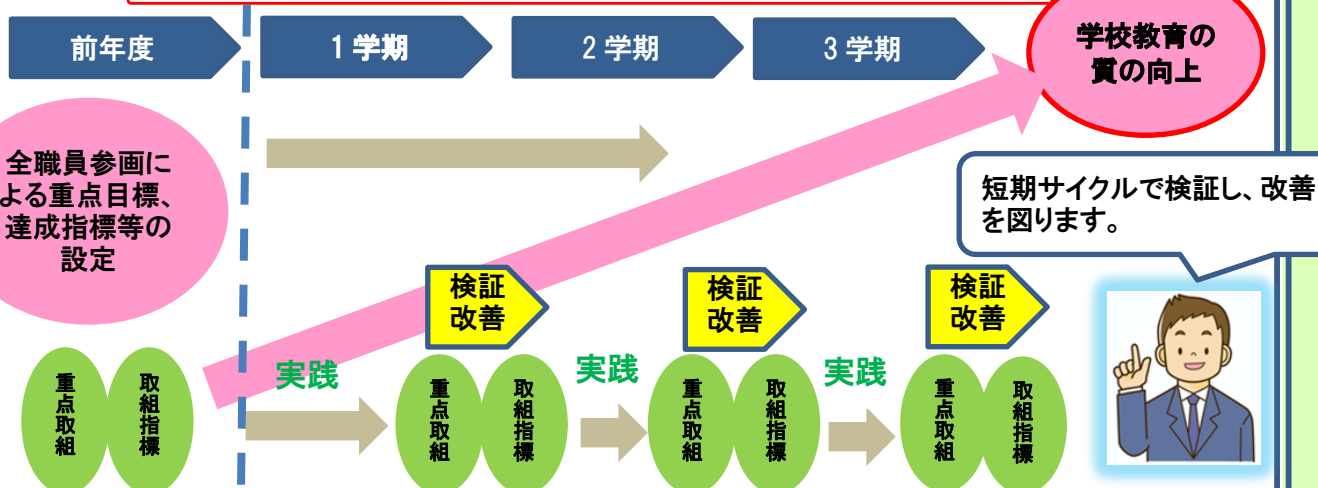
【達成指標】

到達度評価問題（算数）の到達率を80%以上

【取組内容（重点取組＋取組指標）】

- 全教員が学期に3回以上の互見授業を実施
- 参観者は学期に3回以上、「めあて—まとめ・振り返り」チェックリストに基づき参観
- 年間5回の提案授業を設定し、「めあて—まとめ・振り返り」を意識した授業づくりが進んでいるか分析し、全員で改善方を協議する。

学校教育目標を実現するマネジメントサイクル



算数の学習で説明する力を伸ばす「単元到達度評価問題を例に」

単元到達度評価問題10月、11月を終えて、全学年に共通する課題として挙げられるのが「説明」です。「式や答えは分かっているけど、説明をどのように書いてよいか分からない」「根拠を示して説明することができない」といった実態が見られます。全国学力・学習状況調査では、「事実、方法、理由を説明する問題」が出題されています。説明する際、どのような要素が必要か、単元到達度評価問題を例に考えたいと思います。

「はじめに」「次に」「だから」といった説明を進める言葉は指導しているが・・・



事実、方法、理由を説明する際に、基本的な説明の仕方はないのかな？

基本的に右のような4つの要素がそろえば十分な説明である、と考えています。問題によっては、1つの要素のみを問うものもあります。



<説明する際に必要な要素(例)>

- ①方針(根拠となる考え方・解決方法)
- ②情報の整理
- ③結論につながる計算
- ④結論(答え)



事実を説明する問題

単元到達度評価問題4年(1月)
問題3(1)【しげるさんの式】の中の「8」はどのような人数を表していますか。言葉を使って書きましょう。

5年生のハンカチ・ティッシュペーパー調べの結果 (人)

【しげるさんの式】

$$70 - 61 = 9$$

$$9 - 1 = 8$$

$$62 - 8 = 54$$

		ティッシュペーパー		合計
		持ってきた	持ってこなかった	
ハンカチ	持ってきた	ア	イ	62
	持ってこなかった	ウ	エ	54
合計		61	オ	70

- ①それぞれの式と答えが、表のどの部分を表しているか考えます。
- ② $70 - 61 = 9 \rightarrow 9$ はオ
- ③ $9 - 1 = 8 \rightarrow 8$ はイ
- ④8は表のイだから、この8はハンカチを持ってきて、ティッシュペーパーを持ってこなかった人数です。

方法を説明する問題

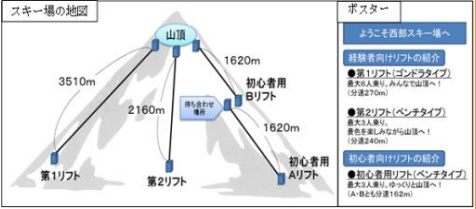
単元到達度評価問題5年(11月)
問題3(2)7m20cmをこえた部分に着目した平均の求め方を、言葉と式を使って書きましょう。

回数	車が進んだきより
1	7 m 5 2 cm
2	7 m 3 1 cm
3	7 m 5 4 cm
4	7 m 2 0 cm
5	7 m 4 3 cm

- ①7m20cmをこえた部分の平均を求めます。
- ② $(32 + 11 + 34 + 0 + 23) \div 5 = 20$
- ③もとにした7m20cmに、求めた平均の20cmをたします。
- ④車が進んだきよりの平均は、7m40cmです。

理由を説明する問題

単元到達度評価問題6年(10月)
問題3(2)第1リフトと第2リフトとを比べて乗っている時間が短い方に乗って頂上まで行くことにしました。第2リフトに決めたわけを、式と言葉を使って説明しましょう。



- ①時間は、距離÷速さで求められる。
- ②第1リフトに乗っている時間は、 $3510 \div 270 = 13$ で13分
第2リフトに乗っている時間は、 $2160 \div 240 = 9$ で9分
- ③第2リフトの方が乗っている時間が4分短いから。
- ④答えは第2リフトです。

授業のねらいを「〇〇〇を考えて説明しよう。」と設定して授業をする場合、まず、何が問われていて、何を説明するのか(事実、方法、理由)を明確にした上で、必要な要素について話し合うことが大切です。さらに、授業を通して、**ねらいを誰もが達成すること**が求められるため、一人ひとりが自分の力でもれなく説明ができているのかを見取ることが重要になります。例えば、数値や条件を変えた問題を説明したり、適用問題で説明できているかを確認したりするなど、全員がアウトプットする場を設定することが必要です。



特別支援教育ほっと通信



平成31年1月
西部教育局

特別支援学級において、特別な教育課程を編成する場合の手順と、知的特別支援学校の各教科について紹介します。教育課程編成の際の参考にしてください。

学校教育法施行規則 第三百三十八条

小学校、中学校若しくは義務教育学校又は中等教育学校の前期課程における特別支援学級に係る教育課程については、特に必要がある場合には、**特別な教育課程を編成する**ことができる。

障害の程度や学級の実態等を考慮の上、
各教科の目標や内容を**下学年の教科の目標や内容に替える。**
各教科を、**知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替える。**

【知的障害者である児童の実態に応じた各教科】の目標を設定するための手続きの例(小学校の場合)

A 小学校学習指導要領の第2章各教科に示されている目標及び内容について、次の手順で児童の習得状況や既習事項を確認する。
・当該学年の各教科の目標及び内容について
・当該学年より前の各学年の各教科の目標及び内容について

B Aの学習が困難又は不可能な場合、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の第2章第2款第1に示されている知的障害者である児童を教育する特別支援学校小学部の各教科の目標及び内容についての取扱いを検討する。

適切な実態把握がなされているか？

長期的な視点にたっているか？

C 児童の習得状況や既習事項を踏まえ、小学校卒業までに育成を目指す資質・能力を検討し、在学期間に提供すべき教育内容を十分見極める。

D 各教科の目標及び内容の系統性を踏まえ、教育課程を編成する。

育成を目指す資質・能力が明確になっているか？

カリキュラムマネジメントが効果的に行われているか？

【引用】小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説総則編(平成29年7月) P110

【知的障害者である児童・生徒を教育する特別支援学校の各教科とは・・・】

必要がある場合は、「外国語」を設けることができる。

小学校1・2年の生活とは、目標及び内容が異なります。

「ア 基本的な生活習慣」「イ 安全」「ウ 日課・予定」「エ 遊び」「オ 人との関わり」「カ 役割」「キ 手伝い・仕事」「ク 金銭の扱い」「ケ さまじり」「コ 社会の仕組みと公共施設」「サ 生命・自然」「シ ものの仕組みと働き」の12の内容から構成されています。

小学部の各教科

生活 国語
算数 音楽
図画工作 体育

理科・社会はありません。

中学部の各教科

国語 社会 数学
理科 音楽 美術
保健体育 職業・家庭
外国語

技術・家庭とは、目標及び内容が異なります。

職業分野:「A 職業生活」「B 情報機器の活用」「C 産業現場等における実習」
家庭分野:「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」

児童生徒の知的機能の障害の状態と適応行動の困難性等を踏まえ、各教科の各段階、基本的には、知的発達、身体発達、運動発達、生活行動、社会性、職業能力、情緒面での発達等の状態を考慮して目標や内容を定め、**小学部1段階から中学部2段階**にわたり構成しています。

【引用】特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)平成30年3月 P20～25

特別支援学級は、**小学校・中学校の学級の一つ**であり、通常の学級と同様、各教科、道徳科、外国語活動及び特別活動の内容に関する事項は、特に示す場合を除き、いずれの学校においても取り扱うことが前提となっています。



なぜ、**その規定**を参考にするということが選択したのか、**保護者等に対する説明責任を果たしたり**、指導の継続性を担保したりする観点から、**理由を明らかにしながら教育課程の編成を工夫することが**大切です。